

「第36回 ICS 世界総会」に出席して

常任幹事 山本雅一 / ウィーン 2008年12月4～6日

平成20年12月4-6日までウィーンで第36回 ICS 国際会議が開かれた。今回はシカゴ本部主導の会議であり、これまでのように開催地の会長を置くこともなく、MCI という会議専門会社がサポートする形で進められた。このため、本部事務局長の Max Downham が議事、開会式、Gala パーティーなどを一手に取り仕切っていた。



学会の前日には本部役員選挙が行われた。おそらく、40-50年前より行われていたと思われる古いタイプの選挙であり、投票権をもった医師の名前と投票数が読み上げられ、会長選挙から、地域会長などの選挙が一日がかり行われた。

敗れた候補者は、下位の選挙にノミネートされるという複雑な選挙であり集票にも時間がかかった。投票直前に各国間でネゴシエーションがされており、大部分の結果は予想通りとの感じであった。

会長選挙には米国の Dr. Said A. Daee とエクアドルの Prof. Jose M. Alvear が立候補していたが、地の利を生かした Dr. Daee が本部を巻き込んで圧勝したようであった。

日本部会は、30 Additional Governors に炭山教授、兼松教授、山岸教授、平田教授、私(山本)が選出され、高崎アジア部会長とともに国際外科の本部役員として6名が選出されたこととなった。前回の選挙と比較し、大幅に役員を増やすことができたことは、高崎会長の努力の結果であるとともに、会議にご出席頂きました、兼松教授、山岸教授、平澤教授に心から御礼を申し上げます。

会議で示されていたが、やはり会員数の問題は大きいようである。特に米国での会員数の減少にシカゴ本部は危機感を抱いていた。これに対しアジアの会員数は増加しているようである。日本はアジアの優等生であり、今後は日本がアジアの一員として更に発言力を増していくと考えられた。

今回のウィーンの会議は参加者も多く、曲がりなりにも成功であったと思われる。学会の内容については、ICS本部が主導であったことから、日本部会の意向を反映させることが可能であった。

来年は2年毎の定期的な国際会議とは別に北京で ICS world Congress 2009 が "minimum invasive surgery" のテーマで開催されることになった。日程は平成21年11月13-16日である。日本からも多くの ICS 会員が出席されることを願う。

今後も、テーマを選ぶこと、開催地を厳選すること、さらに内容をレベルアップすることで ICS がさらに繁栄することを望んでいる。

2009年1月吉日

International College of Surgeons Japan Section

国際外科学会日本部会 東京女子医科大学 消化器病センター内
〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1 Tel:03-3353-8111 Ext.25229 Fax:03-3358-1424

Mail: ics-japan@info.email.ne.jp

Copyright(c); 2005 International College of Surgeons Japan Section